

ぱす ニュース

発行日
2023/7/4
発行元
クリニカルパス委員会

～クリニカルパス大会開催報告～

2023年3月9日(木)16時より、外来棟5階講堂で、2022年度クリニカルパス大会が開催されました。



今回は、4階西病棟から鼓室形成術のクリニカルパスの変更について、6階東病棟から口腔外科クリニカルパスの見直し、放射線室からクリニカルパス運用のフラッシュアップを目的とした令和4年度各種取り組みについて発表をしていただきました。

発表者は耳鼻咽喉科の久保先生と寺島看護師、歯科口腔外科の小林先生と藤原看護師、放射線室石川技師です。

最初に、久保先生から「耳鼻咽喉科 鼓室形成パス」と題して説明がありました。真珠腫性中耳炎に対して行われた鼓室形成術を例に挙げられ、術の方法、術後経過などの説明をされました。

このあと寺島看護師から、鼓室形成術のクリニカルパスの3つの修正点について報告がありました。

まず、鼓室形成術のクリニカルパスを修正するに至った理由として、新型コロナウイルス感染拡大の影響で入院期間を短縮する必要があったからということでした。術後の耳内処置、早期のドレーン除去、8日退院パスの追加、この3点を修正し、さらに今後の課題として、症例の少ない14日退院や小児の場合などを検討し、修正を重ねていきたいと述べられました。

続いて小林先生から、歯科口腔外科の麻酔管理方法や鎮静目的、手術の種類や、実際の術中写真を用いて症例の紹介がありました。このあと藤原看護師から歯科口腔外科クリニカルパスの見直しについて報告がありました。

患者へ説明する際不要な処置などを見つけたことをきっかけに、見直しを行ったと話されました。修正例をいくつか挙げられ、パスの日々の見直し、修正により医療の質向上へ繋がると述べられました。



最後に石川技師から「クリニカルパス運用のフラッシュアップを目的とした令和4年度各種取り組みについて」と題して発表がありました。

具体的な取り組みとして、1点目はバリエーション入力/抽出方法の変更で、これは正確な入力と業務量の低減を図っているといえます。2点目はクリニカルパスマニュアルの改訂で、旧マニュアルに比べ、クリニカルパスの基礎的な知識や解説が載っており非常に理解しやすくなっているので、ポータルサイトから閲覧可能な新マニュアルを参考に、正確なバリエーション入力のご協力をお願いしたいと話されました。

クリニカルパス使用後は、毎月バリエーション集計を行っており、どのようなバリエーションが発生しているかを分析し、必要時にパスの修正を行っています。今後もパス委員だけでなく、病棟の皆さんと多職種協力し合い、意見を出し合ってより良いパス作りを目指していきたいと思っております。

発表者の方にはお忙しい中で資料をまとめ、この大会に向けて尽力を頂き有難う御座いました。



クリニカルパスとは？

スケジュール表（パス表）を利用して医療の介入内容を最適化したもので、評価・改善を行うことで医療の質を向上させるマネジメントシステムです。

簡単に言えば、投薬・検査・処置・リハビリ・食事等の行為を効率よく組み合わせた予定表であります。

言葉の説明

- ①アウトカムとは？＝目標
患者のアウトカム
例)食事が摂取できる、傷が治癒する。
例)炎症値（CRP）が陰性になる。
例)歩行器歩行が自立できる。
- ②バリエーションとは？
＝目標が達成できない状態のこと(クリニカルパスの予定とずれた結果のこと)
患者バリエーション
例)食事が開始できない
例)歩行器歩行が開始できない
例)点滴が終了できず数日間延長となった
例)食事が1日早く開始された。
例)予定より2日早く退院した

参加人数：19名

～纏集備記～

今回のパス大会も、感染リスクを考慮しパス委員のみの出席となりました。興味深い発表と、それを真剣に聞く委員メンバーの姿を拝見し、無事に開催出来て良かったと感じました。次回は多くの方が参加出来るよう望んでおります。

パス委員会 広報